

四日市萬古焼産業の歩みと今後への対応

萬古陶磁器工業協同組合 専務理事 松本賢一

四日市萬古焼は、その発祥以来二四〇余年の伝統を有しており、県下の産業の中でも典型的な伝統産業の一つであります。

第二次大戦中、生産が一時途絶えたことや、昭和二十年六月十八日にB29を主力とする大空襲の下で、生産設備の約八割と販売業者の施設はほとんど灰燼と化したこともありましたが、戦後急速に生産体制を立て直し、高度経済成長の波にのり、量産

志向の中で拡大発展したものであります。この間、輸出が再開され、トネル窯の全盛時代があり、花器、土鍋が全国的にその市場性を高め、更には植木鉢、どら皿がブームの人気を背景によく売れ、又、産地間屋が贈答用セットの企画を成功させたことなどにより、生産量、生産額において、全国でも三指に数えられる産地を形成するに至りました。



しかし、この発展の原動力は、一般的にみて品質面で他を凌駕するものを有するというよりも、小廻り性を生かしたコスト競争力に負う面が強かったからだと考えられます。このような成長過程をたどってきた当産地も、近年大きな転機を迎えています。即ち、造れば売れる労働集約型の時代から、個性化、高級化への知識、技術集約時代、十年



一昔の時代から一年一昔の時代へと、その変遷にスピードが増して来たことにあります。こうしたことから、今後への基本的な考え方として、各業者は、

「将来に向けて、グローバルに大きく目を見開いて、己のポジションをしっかりと見極めてゆくこと」

だと思います。そのためには、国際的視野の拡大、後継者の育成、技術力の強化、デザイン開発力の育成、更には、取引のネットワークが確立されたことにより、品性の高い人間性の陶冶等々が考えられます。

最近、骨折する子どもがふえたと言われます。

原因はいろいろあると思いますが、栄養上からだけいえば、おそらくカルシウムの摂取不足だと思います。かんたんにカルシウムが不足しているから骨折するといふのではなく、その他にも考えられることは、いろいろな生活のアンバランス、毎日の生活習慣のみだれ……、こういったところにも大きな原因があると思われれます。

骨をより丈夫にするには、ビタミンDの働きが必要です。イワシなどビタミンDを多く含む食品を食べる機会が少なくなっています。太陽にあたれば、ビタミンDは体内でもつくられますが、これが生活化されたものでなければ骨に役立つ働きをしません。生活化するところは腎臓と肝臓です。腎臓や肝臓に何らかの機能障害があれば、骨はもろくなるわけです。

骨を丈夫にするために大切なものは、ビタミンCです。ビタミンCの不足も、体の中のコラーゲンが充分作られず、この結果、骨がもろくなってしまうのです。だから、カルシウムだけの不足と考えると、栄養面全体から、人間の体にはカルシウムもビタミンDもCも必要であるといふことが、おわかり頂けたと思います。毎日の食生活の上で、子どもたちの健康のために、お母さんたちはあらゆる手だてを惜しんではならないと思います。できるだけ新鮮な食品を求め、調理方法もよく考えている

骨折多い子どもたち

その原因を考えてみて

海蔵小学校 小林栄子

か、また普段見過してきた食品の中に、もっと栄養的に効率のよい食べ方のできるものはないか、等々ちよつとした努力が、子どもの健康を守る近道になるのではないのでしょうか。学校でのけがを調べてみますと、昭和五十六年骨折が6件、五十七年で3件、五十八年の十二月までに9件あります。五十八年の骨折についても、六月に2件あっただけで喜んでいたところ、九月からパタバタと骨を折り、7件も増えたわけです。

三角布で不自由に吊っている子どもを見て、胸のいたむ日々でした。運動のシーズンとなり、遊びや運動が激しくなったためにおこった骨折ばかりとは言えないところが悲しいのです。勢いよく走っていて骨折、又は、階段の手すりから落ちて骨折、高とびで着地に失敗して骨折……、子どもたちの動きの中に何か不十分などところがあるために起っているのです。

敏捷性、事故にあう直前の身の処し方の不足、運動能力の低下のためか、戸外での遊びなども、今では少なくなってきたため機械に動けないのか……。事故を防ぐ手だてとして、今後学校でも考えていかなければなりません。

子どもたちが心身共にすこやかに育つためには、体に不調のない、さわやかな、いきいきとした生活ができる日々である様にとっております。